

報道機関各位

財団法人東北活性化研究センター
「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成23年10月東北分
(新潟を含む東北7県)」について

財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成23年10月東北分（新潟を含む東北7県）」についてとりまとめましたのでお知らせいたします。

【基調判断】

●今月の基調判断…東北地域の景気は

「東日本大震災の影響があるなか、持ち直しの動きは緩やかになっている」

（据え置き）

・東日本大震災や放射能汚染及び風評被害の影響に加え、円高の影響も出始めるなか、住宅や求人など復興関連に堅調な動きが続いているほか、一部で高額品や秋冬物に動きがみられる。一方、先行きは住宅や求人など復興関連の需要に加え、秋冬物や年末年始の需要に期待があるものの、放射能汚染及び風評被害並びに円高及びタイの洪水被害の長期化による企業活動や雇用、消費への影響が懸念されている。このことから、総合的には東日本大震災の影響があるなか、持ち直しの動きは緩やかになっていると判断される。

【調査結果のポイント】

(1) キーワード

・プラスのキーワード

…復興需要（現状、先行き）、秋冬物（現状）

・マイナスのキーワード

…低価格・買い控え（現状、先行き）、放射能汚染及び風評被害（現状、先行き）、欧州の信用不安に伴う為替・株式（先行き）、タイの洪水被害（先行き）

(2) 現状判断（3か月前との比較、方向性）

・現状判断DI「50.4」（+2.6）は、3か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を3か月ぶりに上回った。

・家計動向は、低価格志向などを背景に売上や客単価等の低迷がうかがえるほか、放射能汚染による風評被害の影響が続いているものの、一部高額品や秋冬物商材、震災復興関連の需要に引き続き堅調な動きがみられる。DIは「48.9」（+4.5）と3か月ぶりに前月を上回ったものの、景気判断の基準となる50を3か月連続で下回った。

・企業動向は、災害廃棄物処理や住宅の新築及びリフォーム、飲食等で復興関連の需要があるほか、スマートフォン需要の高まりで一部通信業に動きがみられるものの、自動車

部品や半導体関連など製造業では円高の影響がうかがえる。DIは「50.0」(▲2.6)と2か月ぶりに前月を下回ったものの、景気判断の基準となる50を5か月連続で上回った。

- ・雇用動向は、被災地を中心に、建設及び住宅・リフォーム等の復旧・復興関連や、専門職、事務系等で求人及び派遣依頼の動きがみられ、有効求人倍率も増加傾向にある。DIは「60.7」(±0.0)と横ばいで、景気判断の基準となる50を4か月連続で上回った。

(3) 先行き判断(3か月先の見通し、方向性)

- ・先行き判断DI「49.4」(+2.7)は、3か月ぶりに前月を上回ったものの、景気判断の基準となる50を3か月連続で下回った。
- ・家計動向は、低価格志向や放射能汚染による風評被害、円高及びタイの洪水被害の長期化による消費への影響が懸念されるものの、復興需要や冬物商材の動きに加え、歳暮商戦や初売りなど年末年始の需要に期待がみられる。DIは「49.6」(+4.3)と3か月ぶりに前月を上回ったものの、景気判断の基準となる50を18か月連続で下回った。
- ・企業動向は、土木工事や住宅の新築及びリフォーム、飲食等で引き続き復旧・復興関連の需要が見込まれるものの、自動車部品や半導体関連など製造業では、円高やタイの洪水被害の長期化による更なる影響が懸念されている。また、農産物は風評被害による影響が懸念されるなど厳しい状況は変わらない。DIは「45.6」(▲3.7)と3か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で下回った。
- ・雇用動向は、引き続き復旧・復興関連や専門職等の求人及び派遣依頼が見込まれるものの、製造業を中心に円高やタイの洪水被害に伴う雇用環境の悪化が懸念されている。DIは「54.8」(+3.6)と2か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を6か月連続で上回った。

以上

<添付資料>

- 調査結果の概要

<お問い合わせ先>

財団法人 東北活性化研究センター(担当:木村)
〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10
TEL: 022-222-3394 FAX: 022-222-3395

【調査結果の概要】

1. 今月の基調判断

景気ウォッチャーの判断によれば、東北地域の景気は、東日本大震災の影響があるなか、持ち直しの動きは緩やかになっているとのことである。

2. 今月のDI※

(1) 現状判断（方向性）DI

3か月前との比較である現状判断DIは、「50.4」（+2.6）と3か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を3か月ぶりに上回った。

	22年				23年									
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
東北現状	40.7	38.6	42.0	45.1	42.8	48.9	16.8	23.5	35.7	52.8	59.5	49.9	47.8	50.4
家計動向関連	39.2	36.9	40.1	44.2	40.0	48.2	15.3	25.2	36.6	52.3	59.6	46.6	44.4	48.9
企業動向関連	40.4	38.4	45.1	47.6	44.5	50.0	18.2	23.1	36.5	59.9	57.5	52.5	52.6	50.0
雇用関連(参考)	51.2	50.0	47.6	46.6	57.1	51.2	23.8	13.6	28.6	42.9	63.1	66.7	60.7	60.7

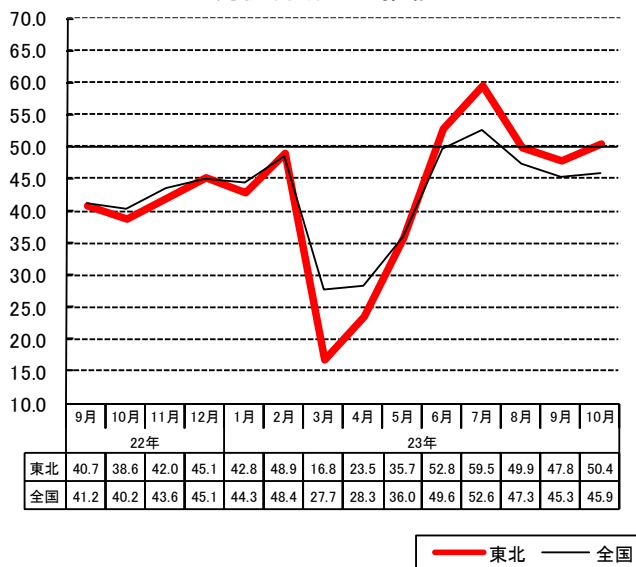
(2) 先行き判断DI

3か月先を予想する先行き判断DIは、「49.4」（+2.7）と3か月ぶりに前月を上回ったものの、景気判断の基準となる50を3か月連続で下回った。

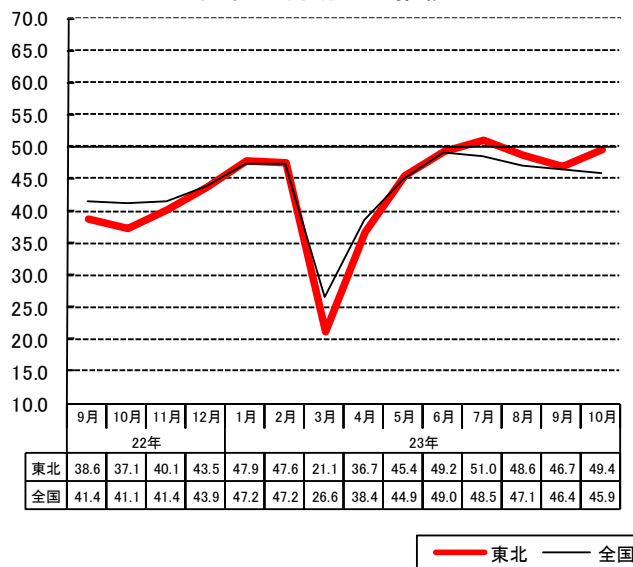
	22年				23年									
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
東北先行き	38.6	37.1	40.1	43.5	47.9	47.6	21.1	36.7	45.4	49.2	51.0	48.6	46.7	49.4
家計動向関連	37.6	36.4	40.7	42.6	47.5	47.4	20.7	36.1	43.5	47.1	47.4	45.4	45.3	49.6
企業動向関連	39.1	37.2	37.2	45.1	47.6	46.2	19.6	39.1	47.3	53.3	56.3	54.4	49.3	45.6
雇用関連(参考)	44.0	41.7	41.7	46.6	51.2	51.2	26.2	36.4	54.8	56.0	64.3	59.5	51.2	54.8

※DI（Diffusion Index）について…50を基準とし、50を超えると景気が良い方向にあることを示す。

現状判断DIの推移



先行き判断DIの推移



3. 調査の概要

調査期間 平成23年10月25日～31日

回答者数 201/210名、回答率95.7%（全国1,883/2,050名、91.9%）

4. 特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「良くなっている」

（衣料品専門店）…セールを行っているが、ここ数年見たことがないほどの売上を記録している。客の様子を見ても、値段にシビアな人も見られるが、冬物をしっかりと準備する人や、ある程度しっかりとしたものを選ぶ人も多く、景気が少しずつ上向いていて、身の回りの物にもお金が回るようになってきているように見える。あるいは、コートなどを早めに準備しようとするモチベーションが例年以上に感じられる。

○「やや良くなっている」

（商店街）…ここ数か月、生活用品の店でいくらか良い状態が続いているが、それに加えて、宝飾店にも徐々に動きが出始めている。

（雑貨販売店）…個人消費については、気温の低下や電力需要とのからみもあり、秋冬物が好調に推移している。

（百貨店）…売上の前年比は3か月前より良くなっている。気温も落ち着いてきており、婦人服や紳士服の秋冬物の動きが良い。ブランド品も引き続き好調である。

（乗用車販売店）…車両生産供給制約の緩和からバックオーダーの解消が進み、販売は堅調である。

（通信会社）…新発売のスマートフォンの影響で携帯電話業界はかなり活性化しており、景気そのものも上向いてきている。

（広告代理店）…百貨店や自治体からの印刷物等の発注が増加している。3か月前は前年比70%弱であった売上が85%程度まで持ち直してきており、確実に良くなっている。

（企画業）…東日本大震災の被災地において、倒壊等を免れた住宅のリフォーム需要が高まっており、地場工務店が好調である。また、新築需要も出てきている。

（人材派遣会社）…建設業からのCAD操作や金融関係の審査業務等に加え、放射線被害診断結果のデータ処理業務にかかる派遣依頼が民間企業からきているなど、専門職の依頼が全般的に堅調である。

（人材派遣会社）…事務などの派遣オーダーが目立ち始めており、決定のスピードも速くなっている。

（人材派遣会社）…住宅やリフォーム業界が引き続き堅調であることに加え、外食産業からも求人が出てきている。

（職業安定所）…復興関連及び緊急雇用対策による求人が依然として好調で、有効求人倍率も上昇してきている。

○「変わらない」

（商店街）…ここ数か月、商店街の来客数や購買額に大きな変化はなく、消費意欲が低いレベルで安定している。生活必需品中心の買物が多くなっている。

（百貨店）…全体的な動きが良いなかで、特に寝具の動きが良いのが目立っている。価格帯も幅広く、数量的にもまとまった数が動いている。冬場の省エネ対策と、震災特需による動きであると見ている。

（スーパー）…農水産物を中心に、旬の産地が東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を受けた地域から別の地域に移行したことや、気温が低下したことにより、生鮮商品の動きは良くなってきているものの、加工食品等は特売等で価格を下げなければ大きな動きはない状況が続いている。消費者の低価格志向が強くなってきている。

（コンビニ）…売上は前年比112%、来客数は同108%、客単価は同106%と好調である。工事関係者の増加があり、弁当、飲料、たばこ等がよく出ている。また、20代から30代の女性客が増加しており、デザート関係も好調となっている。周辺の住民も高齢者が多いせいか、遠くのスーパーではなく身近のコンビニを利用している人が多い。

（家電量販店）…地上デジタルテレビの単価ダウンが大きく影響し、3か月前と比べ客単価が一層低下

している。冷蔵庫や洗濯機の価格は持ち直しているものの、テレビの低下分をカバーするには至っていない。

(都市型ホテル) …復興支援関係者の利用も含めて、大きな変化はない。ただし、例年であれば週末は宿泊部門が込み合うシーズンであるが、今年はそうではない。また、例年秋に開催される各種大会も全くない。

(通信会社) …毎年新規契約者が増加する時期であるが、増加はわずかで、解約者は予想以上に増加している。例年に比べ景気が悪くなる8月と同水準である。

(住宅販売会社) …受注量が増えており、仕事量は安定して推移している。

(一般機械器具製造業) …自動車部品については下期各社の増産計画に基づき需給量を増やしているが、円高の定着により、輸出環境は更に悪化した状態となっている。

(建設業) …自治体から、災害廃棄物処理業務が継続的に発注されている。

(飲食料品卸売業) …量販店の安売り競争が激化しており、それに巻き込まれた中小のスーパーも価格で対抗しているため、納品価格に大きな影響が出ている。

(飲食料品卸売業) …地元飲食店が復興関連の来県者でにぎわっているため、業務用酒販店への出荷が依然として好調である。県外への出荷も県産地酒の需要が大きく、好調が続いている。

(職業安定所) …建設業で震災復旧のための求人が増加している。新規求人数は前年同月比で大幅に増加し、6か月連続での増加となっている。

○「やや悪くなっている」

(スーパー) …前半は猛暑の影響と台風被害などにより野菜の高騰が続いた。中旬以降は落ち着いてきたものの、例年より高い気温で推移しているため、鍋物といった秋冬商材の動きが悪くなっている。また、震災の影響で、宮城の牡蠣、福島など太平洋側の鮮魚の入荷がほとんどない。加えて、事前の買いだめにより新米が売れないなど、食品スーパーは売上を作りにくい状況が続いている。

(衣料品専門店) …寒暖の差が激しくなってきたとはいえ、総体的に気温が高いため、秋物商材から冬物商材への移行が進んでいない。

(乗用車販売店) …来客数は新規客、既納客とも前年比9割と低くなっている。特に車検等の整備依頼が減少傾向で、今までの上得意客が金額面で他社に流出してしまっている。顧客の節約傾向が顕著に表れている。

(酒類専門店) …生活防衛意識が一段と高まっており、単価は低く品質に問題のないものを購入する傾向が見られる。

(都市型ホテル) …ホテル宴会、レストラン、宿泊、デパート地下の総菜店など、当社の場合、いろいろな部門で営業を展開しているが、デパート地下の総菜店を除き、来客数の減少及び消費単価の低下が続いている。特に主力の宴会については、動きが大変鈍くなっている。

(木材木製品製造業) …住宅部材の価格が低下し、収益的に厳しくなってきた。

(職業安定所) …新規求人の全数は、前月までは増加基調を維持していたが、今月は横ばいである。内容を見ると、パートタイムの求人はあるものの、フルタイムの求人が1割減少している。

○「悪くなっている」

(食品専門店) …放射性物質関連の風評が依然としてなくなる。新たに関東地区でホットスポットが見つかったため、落ち着いてきていた農畜産物に対する安心感がまたもや薄れてきたようである。

(工場施設管理) …景気は予想以上に悪く、私の勤務する地区だけでも約150名の余剰人員があり、会社側から関連会社への出向や他の工場への転勤話が出始めている。また、円高の影響で、半導体関連がとてつもない状況になっている。

(2) 先行き判断理由

○「良くなっている」

(衣料品専門店) …いろいろな職業の客から、おしなべて景気は良くなっており、今後は今以上に忙しくなっていくという話を聞く。当店においても、客からは例年以上に冬を迎える準備をしっかりとしようとする様子がうかがえる。スーツやコートを新調する客も多く、売上も伸びていくのではないかと予測している。

(建設業) …緊急性の高い大型インフラ整備案件の出件が見込まれている。

○「やや良くなる」

(商店街) …飲食店を含め、一部の店では苦戦を強いられているものの、客単価の向上など概ね良くなってきているとの声が聞かれる。年末商戦に向けて、動きが活発になる。

(コンビニ) …消費が拡大する年末にかけての需要を取り込むことで、売上向上が図れると考えている。特に震災の影響もあり、外食から中食や内食へシフトしているため、コンビニにとってはチャンスとなる。

(通信会社) …新発売のスマートフォンの効果に加え、アンドロイド携帯の人気も衰えておらず、客の購買意欲は冬商戦に向かって伸びていくと見ている。

(美容室) …疲れている客が多く、リラクゼーションメニューなどの注文が多くなっている。その傾向はしばらく続くと見ている。

(建設業) …震災復興関連の土木工事が具体的になっており、今後の受注が期待できる。

(広告業協会) …早くも正月初売りの新聞広告の引き合いがきている。また、テレビの年始スポットなども各社早めにセールスに取り掛かっている。問い合わせも今年は早くからきており、多少は明るい正月を迎えられる見通しである。

(飲食料品卸売業) …県やその他の機関、団体による観光、物産キャンペーンも予定されており、観光旅館等での飲食や土産等の需要回復が期待される。

(人材派遣会社) …2013年4月入社採用について、検討中の企業が多かったが、ここにきて採用に踏み切ると判断をする企業が増えてきている。

○「変わらない」

(医薬品販売店) …普段は必要なものを必要なだけ購入するという状況が定着している。売出しのときには、いつも使っているものを1つ2つ多めに買うという傾向はあるが、それ以上ということはない。年内はこのような状態が続くと見ている。

(百貨店) …現在の景気が続くと思われ、今の水準が大きく変化するまでには至らない。ただし、今年の歳暮商戦は中元と同様、ギフトの需要が高まり、初売りも好例の祭りとしてにぎわいが出ることが予想される。

(スーパー) …1品単価が落ち込んでおり、同じような機能、品質であれば、安い商品を買求める傾向が目立っている。各社、付加価値をうたい、少しでも単価アップを図っているが、改善は望めそうにない。

(スーパー) …景気回復の材料が見当たらない。電力不足が懸念されるため、ウォームビズ関連の衣料品やカイロ、湯たんぽなどの暖房小物は例年の3～5倍の需要を見込んでいるが、クールビズほど大きな影響はないと見ている。

(コンビニ) …買上点数が伸びており、客単価もプラスと好調を維持している。しかしながら、年末商戦は、震災の影響も出るのではないかと見られ、プラスマイナスで数字が大きく変わることはないのではないかと見ている。

(衣料品専門店) …暖冬傾向が続くようでは、冬物商材の定価販売期間が短くなり、セール期偏重型の状況が予想される。売上は確保できても、利益面に影響が出ることが懸念される。

(住関連専門店) …客足は少しずつ伸びてきている。また、東日本大震災による資材不足等で遅れていた新築物件がようやく完成に向かっており、家具や什器等の需要が少しおう盛になってきている。しかし、客の懐は厳しいようで、そう大きな改善にはならないと見ている。

(観光型旅館) …慰安会や忘年会の予約状況は前年よりはやや多いものの、一般の旅行客の予約が少ないため、平日の営業が厳しい。現在の状況から、大きな変化は見られないと予想している。

(通信会社) …スマートフォンやタブレット型コンピュータといった携帯端末の販売好調に伴い、当社などの固定インターネットサービスの契約は減少を続けているため、あまり期待できない。

(輸送業) …販売量が震災前の水準まで戻るかといった不安な面もあるが、順調にいけば各社共に操業設備が復旧する見込みであり、物流の増加に大いに期待が持てる。

(金融業) …欧州の信用不安による円高の影響やタイの洪水被害に端を発する生産停止で影響を受ける業種がある。一方、設備投資や消費抑制マインドの後退から持ち直し傾向が続く業種もある。全体として景気は横ばいではないかと予想している。

(職業安定所) …求人は増加しているものの、期間雇用求人も多い。もうしばらく求人の増加傾向は継続しそうではあるが、製造業では円高の影響により、受注先の海外シフトを警戒しているところもあり、注意が必要である。

○「やや悪くなる」

(百貨店) …来客数が改善しないため、現在の好調も一過性のような気配がある。雇用、円高に加え、放射能汚染による食の安全などが改善されないため、先行き不安が払しょくできない。

(スーパー) …タイの洪水被害、欧州の信用不安、円高など地元の工場にとっての先行き不安材料が多い反面、回復する要因は見当たらない。

(乗用車販売店) …タイの洪水被害の影響がじわじわと部品調達へ影響を及ぼしている。一部商品は完全に欠品状態で、車販減だけでなく更なる整備台数減へ繋がっている。

(観光型旅館) …旅行シーズンも終わり、冬は完全に閑散期となる。冬季の主な客であるインバウンドは、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の放射能による風評の影響からほとんど見込めず、国内需要についてもそれに代わる売上は期待できない。

(金属工業協同組合) …自動車関連、震災復興関連の動きはまだ良いほうだが、半導体、機械加工関連の取引先の動きが依然として停滞しており、日々の受注量が減少し先が見えない状況が続く。

(職業安定所) …タイの洪水被害の影響で、生産が滞る事態が起こり始めている。当分はその分を国内でまかなおうとするであろうが、人件費の関係で、タイ以外の海外への生産移管が進むことが予想される。そのため、製造業やその派遣なども一時的には忙しくなるが、臨時的な回復と思われ、その反動で景気はやや悪化する懸念がある。

○「悪くなる」

(コンビニ) …たばこの増税による値上げ効果も一巡し、効果が薄れてくることに加え、たばこ以外の売上も低下傾向で推移する。

(農林水産業) …今後出荷が始まるふじりんごについても、桃と同様に、風評被害で収入が例年の半分以下になることが懸念される。

(電気機械器具製造業) …復興税による消費の低迷に始まり、デフレスパイラルに向かっていく。円高が続く輸出産業の財務状態が悪化することや、国内事業の海外シフト等によるリストラで失業率が上昇することなどが懸念される。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上